

TAKEO PAPER SHOW NISEKO

PACKAGING

機能と笑い

Function and Laughter



TAKEO
paper trading since 1899

「PACKAGING——機能と笑い」は文字通りパッケージという営みを、異なる二つの視点から見つめ直す試みです。

「機能」では、古典的な素材でありながら、テクノロジーや印刷加工技術の進展によって大きく変化している紙の近未来に目を向けます。物流が暮らしのインフラとなり、運ぶという営みが多様化した今日では、簡便で機能的な紙器への期待が自然とふくらんでいます。

一方で、環境負荷や資源循環の観点から、紙の役割や守備範囲が変わりつつあります。プラスチックの代替品にとどまらず、紙という素材に新たな光が当たろうとしている今日の状況下で、天然の繊維からどんなかたちが立ち上がり、どんな新しい価値が生まれてくるのかにご注目ください。

「笑い」では、パッケージの魅力に情緒の観点から迫ります。素朴で飾らない、それでいて引き込まれる容器や包装の力には、誰もが覚えがあるはずです。今回はキュレーターとして迎えた梅原真氏に展示物の選定を一任し、一定の価値観で笑いを探求する「篩の目」になっていただきました。

今日の社会や世界へ、どんなメッセージを送ることができるか。

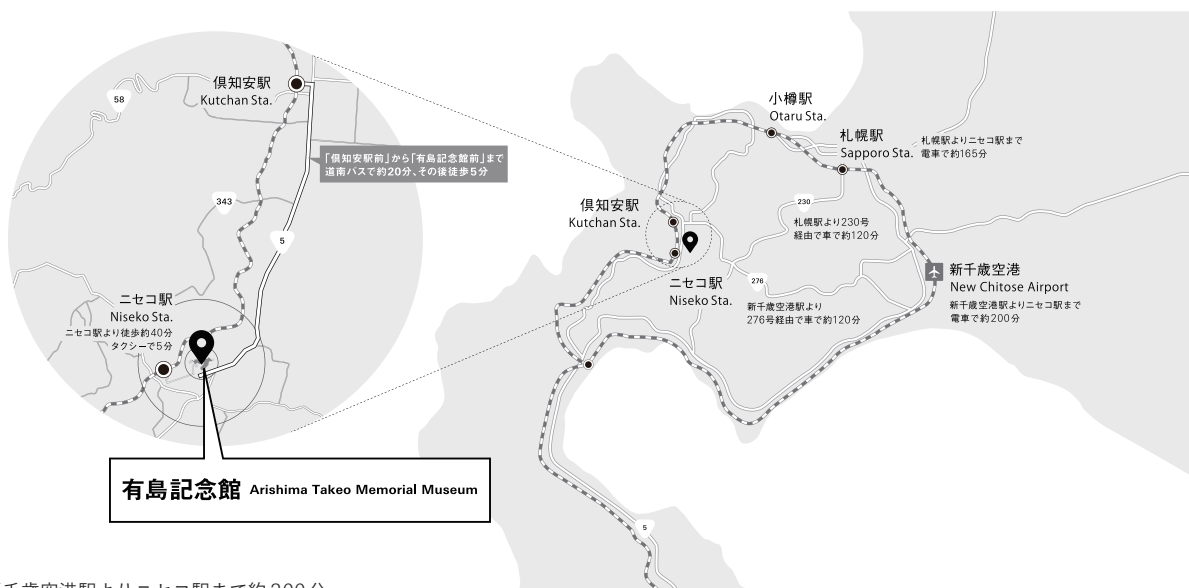
「機能」と「笑い」。二つの観点から「PACKAGING」の可能性を探求します。

株式会社竹尾——主催

原 研哉＋日本デザインセンター原デザイン研究所——企画・構成

展示会概要

名称	TAKEO PAPER SHOW 「PACKAGING——機能と笑い」ニセコ展
会期	2024年7月13日 土 —8月18日 日 (32日間) 9:00-17:00 (最終入場16:30) 月曜休館 (休日の7月15日・8月12日は開館。 翌7月16日・8月13日は休館)
会場	有島記念館 北海道虻田郡ニセコ町字有島57番地 https://www.town.niseko.lg.jp/arishima_museum/
入場	無料 (有島記念館の常設展をご覧の場合は、別途入館料が必要です)
特設サイト	https://www.takeopapershow.com/
主催	株式会社竹尾
総合プロデューサー	竹尾 稠
企画・構成	原 研哉＋株式会社日本デザインセンター 原デザイン研究所



電車	新千歳空港駅よりニセコ駅まで約200分 札幌駅よりニセコ駅まで約165分 ニセコ駅より徒歩約40分、タクシーで5分
バス	「倶知安駅前」より「有島記念館前」まで道南バスで約20分、その後徒歩5分
車	新千歳空港より276号経由で約120分 札幌駅より230号経由で約120分

竹尾ペーパーショウとは

紙の専門商社 竹尾が1965年より開催している紙とデザインのイベントです。同展を通じ、紙を様々な角度と視点から掘り下げ、時代を牽引する多数のデザイナーとともに、その意味と価値を追求し続けています。本展で49回目を迎え、業界唯一そして最大規模のイベントと評されています。

株式会社竹尾について

株式会社竹尾 | TAKEO Co., Ltd.

1899年(明治32年)創業の紙の専門商社。創業当時より洋紙の輸入販売を行い、1950年代からは質感や色を重視した「ファインペーパー」の研究と開発を開始。国内外の製紙会社と連携して先端技術を取り入れると同時に、時代を牽引する多数のデザイナーとともに創造性を刺激する素材としての紙を生み出してきました。また、「見本帖本店」をはじめとしたショールームやtakeopaper.comの運営、竹尾アーカイヴズの活動等、紙文化の活性と市場づくりに挑戦し続けています。

<https://www.takeo.co.jp/>

お問い合わせ

一般	株式会社竹尾 見本帖本店 Tel 03-3292-3669 (11:00-18:00 土日祝・休)
プレス関係者	株式会社竹尾 企画部 (担当: 相田) press@takeo.co.jp Tel 03-3292-3619 (9:00-17:30 土日祝・休)



機能——Function

12組のクリエイターによる近未来「PACKAGING」の競演。

紙の真価を理解し、その豊かな感覚世界に通じている多方面の才能が参集し、
実用レベルに考え抜かれた容器と包装を提案します。

石川将也＋中路景暁 / 開け箱

狩野佑真 / 木のような紙 紙のような木

小玉 文 / 黒を包む

TAKT PROJECT / programmed PAPER

NEW / 塗紙-NURIKAMI- / 紙の留め具

nomena / おいしいかたち

萬代基介 / 紙のかたまり

三澤 遥 / 一枚

三井 嶺 / ジグザグ梱包紙

山口崇多 / Paper tube flowers

CYQL PROJECT / 1/2 段ボール

原 研哉＋日本デザインセンター原デザイン研究所 / SHIKI / マンゴーの本



あじ豚とんかつソース | 株式会社ゲシュマック | 2015年 -

笑い——Laughter

洗練やシンプリシティを目指すのではなく、
パッケージの役割は、思わず手に取らせる力です。
それは一言で言えば「笑い」。
これまでにない角度からパッケージの魅力に迫ります。

キュレーター
梅原 真



高知市生まれ。高知県在住。「土地の力を引き出すデザイン」をテーマにデザインする。柚子しかない村の「ぼん酢しょうゆ・ゆずの村」。かつおを藁で焼く「一本釣り・藁焼きたたき」。荒れ果てた栗の山から「しまんと地栗」。4kmの砂浜を巨大ミュージアムに見立てる「砂浜美術館」。四万十の鮎を原稿料に『水』の本。高知の森林率84%を自慢する「84プロジェクト」。秋田美人をモチーフにした「あきたびじょん」。島根県隠岐郡海士町のアイデンティティ「ないものはない」のプロデュースなど。農林水産省の支援を受け、一本の川全体の生き方をブランディングする「しまんと流域農業organic」進行中。MBA (Master of Bunkou Administration) が取得できる、実技と座学の学校「しまんと分校」を建設中。2016年、毎日デザイン賞特別賞受賞。武蔵野美術大学客員教授。

紙と循環

環境素材としての紙を今一度見つめ直すパネル展示です。計画伐採・植林など森林を未来につなぐ仕組みをはじめ、循環する資源としての紙の諸相を捉え直します。さらに、森林を起点とするエネルギーやCO₂のサイクルなど、紙と地球にまつわる事実を俯瞰します。

FINE PAPERS

2019年以降に発売した新製品やリニューアル品を中心に、竹尾の多彩なファインペーパーを20銘柄以上ご覧いただける印刷加工サンプルをお持ち帰りいただけます。

トークセッション

会期中、会場では北海道を中心に活躍するクリエイターによるトークセッションを予定しています。

書籍

展示空間で表現された内容を再構成した一冊です。「機能」篇では、参加クリエイターによる近未来の「PACKAGING」を、高精細な写真や本展ディレクターの原研哉氏による解説とともに紹介。「笑い」篇では、キュレーターの梅原真氏が厳選した100点のパッケージをはじめ、会場にてご覧いただいた梅原氏によるムービー「笑いのワケ」の書き起こし版を掲載しています。また、紙という素材と人間の関係を見つめ直す鼎談、デザインと笑いについて語り合う鼎談の2本を同時収録。「機能」篇は左開き、「笑い」篇は右開きになる独自の造本設計も特長です。

書籍『PACKAGING —— 機能と笑い』（美術出版社）

価格：4,400円（税込）

仕様：B5変型、320ページ、背開き製本

監修：株式会社竹尾

企画・構成：原研哉＋日本デザインセンター原デザイン研究所

印刷：サンエムカラー

製本：篠原紙工

ご購入：竹尾のウェブストア（<https://products.takeopaper.com/products/9784568105711>）

企画・構成

原 研哉 / デザイナー

＋ 日本デザインセンター原デザイン研究所

Kenya HARA + Hara Design Institute, Nippon Design Center



1992年、日本デザインセンター内に設立。産業文化の可能性を可視化し、新たな覚醒を生み出すデザインを展開。無印良品、蔦屋書店、GSIX、ヤマト運輸、MIKIMOTO等のアートディレクションで知られる。竹尾ペーパーショウにおいては、「RE DESIGN」「HAPTIC」「SUBTLE」など、また異なる展覧会においては、「SENSEWARE」「HOUSE VISION」など、時代の価値観を更新するキーワードを提起する展覧会を作り続けてきた。一方では、外務省の「JAPANHOUSE」や、「低空飛行」など、日本の文化や列島の風土を資源とするプロジェクトに注力している。28名の所員は、ヴィジュアルコミュニケーション、プロダクツ、建築、編集、ライティング、コーディネート、プロデュース等の専門の職域を持つ。

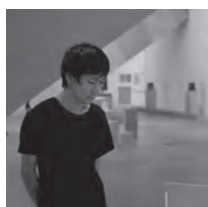
機能 | 参加クリエイター

石川将也＋ 中路景暁 / グラフィックデザイナー＋アーティスト・エンジニア

Masaya ISHIKAWA＋Hiroaki NAKAJI



1980年生まれ。慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修了。佐藤雅彦研究室を経て、2019年までクリエイティブグループ「ユーフラテス」に所属。20年独立。視覚表現の開発と、視覚認知の研究を基点に、グラフィックデザイン、映像、インスタレーション、科学玩具とそれを用いたワークショップの開発などさまざまに活動している。



1987年生まれ。エンジニアとしてメーカーに勤めた後、情報科学芸術大学院大学[IAMAS]メディア表現研究科を修了。機械装置が生み出す表現に焦点を当てた作品の制作を行う。また、エンジニアとして作品の機械設計・製作のサポートも行っている。

狩野佑真 Yuma KANO / クリエイティブディレクター・デザイナー



1988年栃木県生まれ。アーティスト鈴木康広のアシスタントを経て2012年にデザイン事務所「STUDIO YUMAKANO」を設立。23年「株式会社NOU」として法人化。ネジ1本からプロダクト、インテリア、マテリアルリサーチまで、実験的なアプローチを重視したプロセスを組み合わせ、様々な物事をデザインの対象として活動している。主な仕事に、錆模様をテキスタイルに落とし込んだ「A-POC ABLE ISSEY MIYAKE | TYPE-IV Yuma Kano project」、資生堂のスキンケアブランドBAUMの店舗設計「Atelier BAUM」など。武蔵野美術大学非常勤講師。

小玉 文 Aya CODAMA / グラフィックデザイナー



1983年大阪生まれ。AWATSUJI design に7年在籍後、2013年にBULLET Inc.を設立。「物質としての魅力をもつデザイン」に魅せられ、様々な素材や印刷・加工を駆使した、グラフィックの枠を越えた作品制作を行う。著書に21年『パッケージデザインの入り口』（エムディエヌコーポレーション）がある。主な受賞歴に、German Design Award、One Show (gold)、Pentawards (platinum)、Cannes Lions、D& AD Awards、iF Design Award、グッドデザイン賞、日本パッケージデザイン大賞（金賞）など。東京造形大学専任教員。

TAKT PROJECT / デザインスタジオ



2013年、吉泉 聡を代表として設立。東京と仙台をベースに活動するデザインスタジオ。既存の枠組みを揺さぶる実験的な自主研究プロジェクトを行い、ミラノデザインウィーク、デザインマイアミ、パリ装飾美術館、香港M+、21_21 DESIGN SIGHTなど国内外の美術館やデザインの展覧会で発表・招聘展示。その研究成果を起点に、様々なクライアントとコラボレーション、「別の可能性をつくる」多様なプロジェクトを具現化している。Dezeen Awards 2019にてEmerging Designer of the Yearに選出されるなど、国内外で受賞多数。3つの作品が、香港の美術館M+に永久収蔵。23年、21_21 DESIGN SIGHT企画展「Material, or 」の展覧会ディレクターを務める。

NEW 山田十維・沖田颯亜・藤谷力澄・坂本俊太・吉岡俊介／クリエイターズクラブ



2021年設立。様々な専門性と飽くなき探究心を持った多彩なメンバーが集まっている。グラフィックデザインを中心に、プロダクト、印刷加工、プログラミング、化学、ストラテジックデザインなど、それぞれの得意領域を掛け合わせることで、オリジナリティを確立している。モノやコトがあふれる時代を生きるクリエイターとして、人の行動や感情に寄り添う「新しさ」と真摯に向き合い活動している。

nomena /エンジニア集団



2012年、武井祥平により設立。日々の研究や実験、クリエイターやクライアントとのコラボレーションを通して得られる多領域の知見を動力にして、前例のないものづくりに取り組み続けている。近年では、宇宙航空研究開発機構JAXAなど研究機関との共同研究や、東京2020オリンピックにおける聖火台の機構設計などに参画。主な受賞歴に、第25回文化庁メディア芸術祭アート部門優秀賞、21年Penクリエイター・アワード、17年DSA日本空間デザイン賞金賞、日本サインデザイン賞優秀賞、12年MOTブルームバーグ・パヴィリオン・プロジェクト [公募展] メディア・パフォーマンス部門グランプリなど。

萬代基介 Motosuke MANDAI /建築家



1980年神奈川県生まれ。東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修了。石上純也建築設計事務所勤務後、萬代基介建築設計事務所設立。建築の設計をはじめ、インテリア、展示会の会場構成、インスタレーション、まちづくり、ランドスケープなどスケールを横断する活動を行っている。主な作品に「おしか番屋」「石巻の東屋」「椎葉邸」など。主な受賞歴に、DSA日本空間デザイン賞大賞、藤井厚二賞、グッドデザイン・ベスト100など。

三澤 遥 Haruka MISAWA / デザイナー



1982年群馬県生まれ。武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科卒業後、デザインオフィスnendoを経て、2009年より日本デザインセンター原デザイン研究所に所属。14年より三澤デザイン研究室として活動開始。ものごとの奥に潜む原理を観察し、そこから引き出した未知の可能性を視覚化する試みを、実験的なアプローチによって続けている。主な仕事に、かつてない紙の可能性を探求した「動紙」、国立科学博物館の移動展示キット「WHO ARE WE」、隠岐ユネスコジオパーク泊まれる拠点「Entô」のアートディレクション、複数の円筒形を積み木のように組み合わせて構成した「玉造幼稚園」のサイン計画、上野動物園の知られざる魅力をビジュアル化した「UENO PLANET」がある。

三井 嶺 Rei MITSUI / 建築家



1983年愛知県生まれ。東京大学工学部建築学科卒業後、同大学院（日本建築史専攻）で茶室を研究。修士課程修了後、坂茂建築設計を経て、2015年三井嶺建築設計事務所を設立。茶室をはじめとする日本建築の建築理論を探求し、設計活動を主軸に自身の建築哲学を実践している。「骨と装飾」「茶室に見る“無”と透明性」「イメージの媒介としての建築」を創作のキーワードとする。主な作品に「日本橋旧テーラー堀屋改修」「柳小路南角」「森の図書館」、茶室「清風庵」など。主な受賞歴にUnder 35 Architects Exhibition 2017最優秀賞、住宅建築賞2021など。

山口崇多 Agata YAMAGUCHI / グラフィックデザイナー



1988年生まれ、福岡県育ち。東京藝術大学美術学部デザイン科卒業後、10 inc.を経て2021年にcollé（株式会社コル）設立。明るいグラフィックデザインをモットーに、企業のCI・VI開発、ブランディング、パッケージデザイン、サイン計画、アートワークの提供に取り組む。22年には自社ブランドomiseを立ち上げ、オリジナルプロダクト制作を行う。主な受賞歴にJAGDA新人賞2024、東京ADC賞ノミネートなど。

CYQL PROJECT / クリエイティブチーム



2021年、日本デザインセンターから生まれた、人ともとの廃棄の関係をデザインの視点から考えるプロジェクト。捨てる人の気持ちを循環の起点と捉え、リサーチとアウトプットのサイクルを伴う構想的なプロダクトデザインを行う。発表作品に、折り紙のように畳んでコンパクトに捨てられる「捨て心地のよいお弁当容器」、プラスチック再生材レコード盤「REPLAY RECORDS」(大日本印刷主催「Recycling Meets Design」第1期参加作品)。

プレスリリース、写真素材は下記よりダウンロードいただけます。

https://www.takeopapershow.com/tps_press240424.zip

印刷用高解像度データは下記までお問い合わせください。

株式会社竹尾 企画部 担当: 相田

Mail press@takeo.co.jp / Tel 03-3292-3619

画像ご使用时クレジット

日本語 | TAKEO PAPER SHOW「PACKAGING——機能と笑い」ニセコ展

English | TAKEO PAPER SHOW “PACKAGING: Function and Laughter” in Niseko



tps_niseko_logo.jpg



tps_niseko_main_001.jpg



tps_niseko_main_002.jpg



tps_niseko_main_003.jpg



tps_niseko_function_001.jpg



tps_niseko_function_002.jpg



tps_niseko_function_003.jpg



tps_niseko_function_004.jpg



tps_niseko_function_005.jpg



tps_niseko_laughter_001.jpg



tps_niseko_laughter_002.jpg



tps_niseko_laughter_003.jpg



tps_niseko_laughter_004.jpg

ご注意 Important Notice | TAKEO PAPER SHOW に関する画像を使用する際はクレジット表記が必須です。表記のない無断使用などの権利侵害は固く禁じます。Attribution is required when using the images from TAKEO PAPER SHOW. Any infringement of rights in unauthorized posting of publishing of photos is strictly prohibited.